

社会福祉法人 友愛十字会

ゆうあい

1988

9・1

No. 7

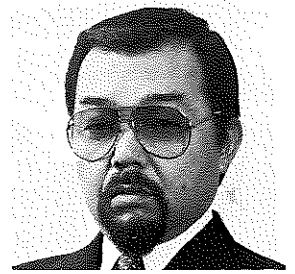
題字 前総裁 三笠宮崇仁親王殿下



リハビリ訓練の輪投げに励むお年寄り（友愛荘）

主な記事

- 近況雑感 総裁 三笠宮崇仁親王殿下
- 働くということ 世田谷更生館
- 入所者寸描 ある老人の歩み 友愛荘
- 手話講習会を通して見えてくるもの 東京都ろうあ者更生寮



近況雑感

社会福祉法人 友愛十字会

総裁 寛仁親王

の滑りを見てみる／＼”という気持も強くあった。その結果、後半にかかる一步手前のガタガタに荒らされたコースの上を横切ろうとした時、右スキーの先が、微妙に、その断差にひっかかってしまった。猛スピード滑降中の微妙なズレは、ゆっくりと滑っている時の衝撃とは格段に違う。私の身体はものの見事に前転し、一回転の後、前述のとおり右内側から斜面に叩きつけられた。

私が、十字会のスキー合宿のコーチを勤めていた頃、必ず練習の始まる前・終わる時・開閉講式の都度、発言していた事を、皆様は今でも記憶しておられるだろうか？それは、「スポーツを遂行する上で、安全という事が一番大切であり、その安全とは、単に雪上のみならず、合宿終了後、家に無事戻れた時点までの事を指す！」と言いつつ続けてきたつもりである。

その御本人の私が、情けなくも昨年五月三十一日、乗鞍岳の氷河上で開催されるシーズン最後のスキー大会に於いて、大転倒をし、右膝内側を強く打ち、右内側靭帯一部断裂という重傷を負ってしまった。大学四年の時も同じ部位を切断しており、三十四年間のスキー人生の二回目の大怪我という事になった。勿論レースは即断念し、帰京し、接骨院に於いて簡易ギプスに固定される事になった。私にはこの時、大きな油断があった。気の緩みといっても良いと思う。

この大会では、私は優勝・入賞の常連であり、特に昨年は、オフシーズンから現役学生に勝るとも劣らないトレーニングを続け、体調は万全であった事もあり、レース前の優勝候補の下馬評では、私が、断突のトップと出場選手全員が思っていた。当然私もそのつもりであった。好事魔多しとはこの事をいうのだろう。一分の隙もなく仕上げてきた体調と技術を過信し、スタート直後から猛然と飛ばした。俺

私が言いたいのは、怪我そのものの事もさる事ながら、完璧に仕上がり揺るがない自信に裏打ちされている状態こそ、一番危険と隣り合わせであるという点である。別の言い方をすれば、前述した微妙な段差がなければ、間違いなく、私は下馬評どおり優勝していただろう。更に言えば、体調技術共に、八十%の仕上がりであれば、当然慎重に滑る事になり、私の技術であれば、優勝出来なかったと仮定しても入賞は確定であつたろう。スポーツの中におけるレースの帰趨とはこんなものである。

この結果、オフシーズンに楽しみの為にやるゴルフは、一年間膝の痛みが取れない為、意識・無意識を問わず、足をかばったフォームで、打つ事になり、以前の正しいフォームからは程遠いものになり、スコアの崩れはもとより、飛距離にして、三十〜四十ヤード減という始末である。一つの怪我が、二年間に亘って私を痛めつけている事になる。

スキーのプロであるが故に、常に危険と隣り合わせにいたいという言い方も出来るが、プロであるからこそ、アマチュア以上に、細心の注意を常時続けなければならないという教訓でもある。スポーツは安全でなければ、元も子もないという事を皆様に再銘記していただきたく、私の失敗談を述べた。

働くということ

世田谷更生館

社会の一員として、働くということが、どんな意味をもつのかよく理解しないままに学校を出て、はや三年を経過しました。

社会に出るということは基本的には、自らの行動に責任を持ち、なんらかの形で社会に貢献することで、労働の対価として金銭に限らぬあらゆる報酬を受けることだろうと思うのですが、現実には報酬とにらめっこしながら、日々の生活を維持するための手段に成り下がってしまいがちです。

まだ多くの人々は「働くこと」が「生き甲斐」と意識しているようですが、実際にはやはり「めしの種」としてのウエイトが高いのではないのでしょうか。もし、そうでなければ身体に障害をもつ人々の雇用がもっと促進されても良いはずだと思うからです。誰もが働くことそのものに喜びを感じるなら、その働く場は誰にでも提供されて当然だと思っています。

とはいえ世の中には本当に数えきれぬ程の仕事があり、そのどれもがそれなりに厳しいものであることは事実だと思います。例えば、その仕事をあえて生産業とサービス業に大別するならば、更生館・友愛園利用者の方々は前者であり、生産活動を通して

責任を負い、貢献をし、報酬を得ています。

私は社会に出てわずか三年の間に下請けとはいえ、物を作るといいうことがいかに難しいかを痛感

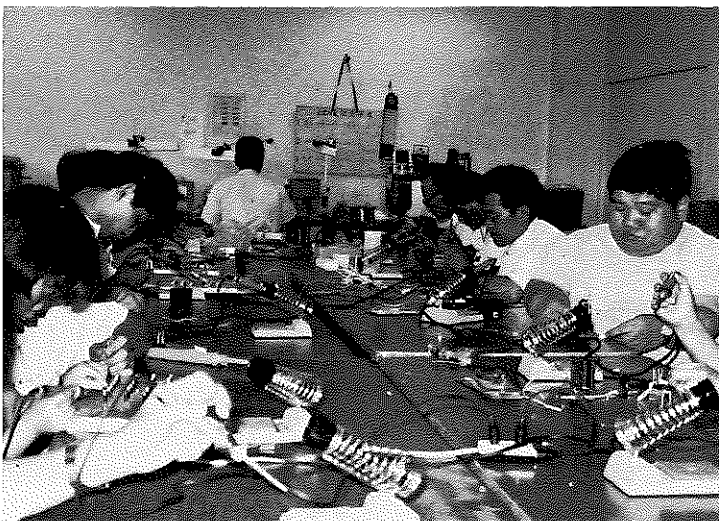
しました。生産性の向上、納期を含めた工程管理、良質な製品を作ることへの技術習得を含めた品質管理、新米指導員が経験豊富な利用者から受ける種々の意見、産業的知識、商業道德等々、いずれも学校では学ぶことのなかった社会人としての初体験でした。生産に携わるからには、今後これ以上のことに絶えず当面し、対応し続けなくてはならない仕事の厳しさであろうと思います。

この自分にとっては多少やっかいな仕事の厳しさを充分理解し、解決していくことをむしろ喜びとして働いていくならば、「めしの種」に成り下がることもないのではないかと考えています。

しかしながら、私は生産業に従事しているのではなく、利用者に職業指導というサービスを行う立場にある指導員であり、その目的の中で責任を負い、貢献をし、報酬を得ないと社会の一員として働くことになりません。ところがつい納期に負われ生産ラインに入り、次の段取りが間に合わなかったりしているのが現状です。すなわち本業の職業指導はもとより、付随する作業も満足に果たすことができないでいる状態です。

まだまだ不勉強で力量不足ですが、諸先輩並びに利用者の方の助言や協力を得て少しずつ改善し続けたいと思います。どんな仕事もただ自分一人で成し遂げられるものは決してないと考えます。社会の一員として働くということは、自らを取り巻く人々に何かを訴え、何かに応え、何かを得ることであると思います。社会人四年生が友愛十字会に入社してあれこれ改めて感じる今日この頃です。

(指導員 宮崎 浩)



入所者寸描

ある老人の歩み

友愛荘

今日もホームの花壇の前で談笑しながら仲良し数人と、しとやかに園庭を散策するお年寄りの姿がある。内面からにじみ出る気品と聡明さ、そしてさり気なく美しく着こなしたセンスの良さは抜群、年齢を感じさせない位若々しい。

この人、小田島絹子さん。当年とって七十七歳。明治四十四年、中央区築地の生まれ。活気に満ちた魚河岸に近い築地本願寺の周辺は、今でも異国的な、しかも下町情緒の豊かな所でもある。築地の生家は先祖代々印刷出版業を営む。開拓社（有限会社）は、築地一丁目の一角に、昨年五階建のビルを建設、築地界限で知らぬ人が居ないほど。そして現在の隆盛の基礎を築きあげたのがご両親であった。律義で信望の厚かった父親は、現在の中央大学法科を卒業。母は当時神奈川県からただ一人だけ、宮内庁の和裁職として宮中に奉職したことがあるという。このような血筋の正しい家庭に育った小田島さんは、大正十二年、十二歳の時、姉と同じ大妻高女（現大妻女子大）に入所して、学業に励む傍らご両親のすすめも

あって、裁縫、琴、お花、お茶など花嫁修業に励む何ひとつ不自由のない暮らしをしていた。忘れもしない大正十二年九月一日、始業式の日、掃除当番をしてい

た姉を校門で待ちわびている時、突然、関東大震災に遇った。琥珀色に染まった空を背に姉と無我夢中で、どうにかこうにか麹町から逃げまどいながら夕方家路にたどり着いたと言う。余震がなお一層強く続き『風上へ逃げる方がよい。父の機転で一家ともども皇居前に避難し、命拾いしました……』と、当時のことをまるで昨日の出来事のように話してくれた。家はその時の火災で焼けてしまったが、間もなく再建された。

昭和八年、日本郵船の造船技師、小田島氏に見染められ結婚、中野の鷺宮に新居を構え一男



一女をもうけた。専業主婦として主人に尽くす一方、お茶、お花をたしなみ、あるとき琵琶の音色に魅せられ、遂に人々に手ほどきをするまでに……。その傍ら二人の子供を大学卒業まで立派に育てあげる「才媛ママ」さんでもあった。

昭和五十八年に最愛の夫を亡くして、心も沈みがちのところへ、六十一年転倒による第十二胸椎圧迫骨折の災難に会って、ベッドの上の闘病生活を送ることになり、気持ちもふさぎ勝ちになってしまった。しかしながら家族の愛に支えられて経過も少しずつ良くなってきたものの家庭介護が困難となり、六十一年十一月に友愛荘に入所した。

さて生活環境は一変したものの、園内放送の朝の小鳥のさえずりで気分よく目覚め、朝夕のラジオ体操や週二回のリハビリ訓練にと心地良い汗を流す生活に馴染んで、次第に気持ちがほぐれ、いまではかつての明るさをとり戻すまでになった。現在は、華道、民謡クラブに、はたまた、多才な小田島さん。「オセロも面白そう」と目を輝かす。昨年ご長男がめでたく結婚されひと安心。コンピュータ関係で知り合った韓国生まれの美しいお嫁さんとか……。時々の面会では賑やかに娘さんやお孫さんに囲まれ、その時の小田島さんの目尻はまったくさがりつばなし。娘さんはホームの皆さんや職員の方々のお陰と感謝しておられる。「それより、何より得がたい生きが

いを共にする友人に出会えたことよ」とニコニコ話してくれた。

「ほろほろと啼く山鳥の声聞けば、父かとぞ思う母かとぞ思う」（石童丸の中より、高野山）小田島さんの好きな和歌だという。

今日もまた、鶯のさえずる緑の芝生に出て日光浴をしている小田島さんの姿を見かけた。すれ違いざまに「ホラッ！こんなに日焼けしたのよ……」と明るく話してくれた、その笑顔がいつまでも印象的であった。

（栄養士 今井アヤ子）



▲ ロータリーウェルダー

トピックス

清水基金より

高性能の授産作業機械を

寄贈される

昭和六十三年三月三十一日、世田谷更生館のビニール科に性能の優れたビニール加工用四分割ロータリーウェルダー（高周波ビニール接合機、写真左上）が導入されました。

これは、社会福祉法人清水基金様（村本周三理事長）のご厚意により、四七〇万円のご助成をいただいて購入することができたものであります。早速、四月一日からの試運転に続き、本格的な生産作業に入っています。

この機械は、今まで稼働していた足踏みみのウェルダーに比較しますと、約三倍の能力アップが見込まれ、重度の障害を持つ人達も直接生産に参加することができ、二重の大きな期待を掛けています。

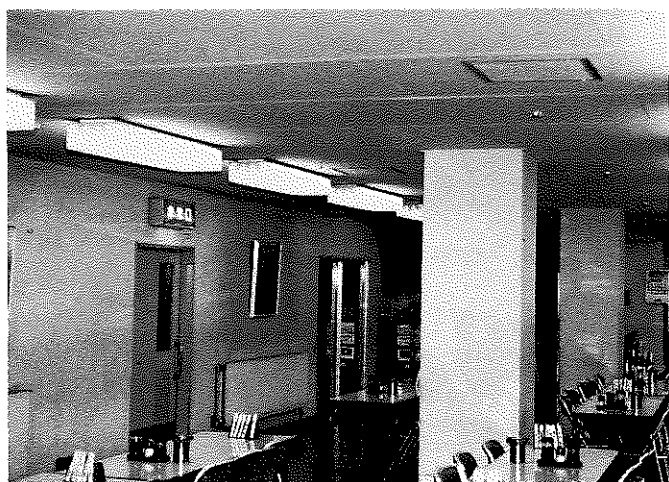
清水基金様本当に有難うございました。

防災設備が整備される

友愛十字会の各施設では、防災対策強化のため、

めに、厚生省及び東京都の補助金で、スプリンクラー設備と自動火災報知設備に連動して一九番に直接接続される非常通報装置を整備することとなりました。昭和六十二年度は、友愛園とろうあ者更生寮にスプリンクラー設備が設置され、友愛荘は昭和六十三年度で整備される予定となっています。

非常通報装置は、既に各施設に設置されており、万一の非常事態に万全を期すことになりましたが、今後、これらの機器が作動することのないように日常の防災に努めたいと思っています。



▲ 食堂に設置されたスプリンクラー

手話講習会を

通して見えてくるもの

東京都ろうあ者更生寮

ろうあ者更生寮では、開設二〇周年を記念した特別事業として、「映画制作」と、施設利用者を対象とした実態調査を行なった。これは、「修了生は今」という報告資料としてまとめられている。

私達は、この調査結果を基に様々な角度から分析した。そしていくつかの試みが開始された。その手始めとして、六二年度から手話講習会が行なわれている。「地域のニーズに対応し、開かれた施設を目指して行く」・「重度・重複化に伴う、問題性意識の先取りとしてあるところの、処遇向上を図る」の両側面を鑑み、スタートをした。

講習会に参加する地域の人達は、「初めて手話を学ぶ」という人が大部分。講師も利用生、職員相互の刺激を促していくことも考え、区の登録手話通訳者をお願いした。六二年度の一般受講生は、開講日二三回分を合計すると一八七名になり、全体では六八七名にのぼる。

そこで今回は、初回から熱心に足を運んでくれた受講生のSさんにお話しし、参加している感想をQ&A形式で語ってもらった。

Q 一月並な質問ですが、手話を学ぼうとしたきっかけは、どんなところにありましたか。

A 私は今まで、そうですね、自分で言うのもおかしいのですが、バリバリとキャリアアウーマン

的に仕事を続けてきたので

すが、交通事故で仕事をやめたわけです。志村に越してきたのが昨年の夏の終り頃、何かしようかなと考えていたんですよ。悪くしていた眼も少しづつ回復して

きたので、点字をやってみようかと、色々考えていた時に、マンシヨンのポストに手話講習会を知らせるチラシが入ってたんです。そのころ地域とのふれ合いもなかったもので、思いきって電話をしてみました。

Q 自分の身体のことと考えながら、何かをしたいなと思ってた時に「手話」グッド・タイミングでした。手話を初めて使ったとき、どのように感じましたか。

A 頭で考えていたほど、手が動かない。ということでした。

Q 「ろう者」の方と、席を並べて何かをするというのは、初めての経験ではないかと思うのですが、とまどいを感じたことはありませんか。

A 「音から遮断された世界」というのは、健聴者の私としては「想像出来ない、すごい大変な世界」だと思いました。それと、皆さん手話や身振りを聞いて、何とか自分のことを表現なさろうとする。見ているとおぼろげながら解る気がしますが、人の言ったことを、読み取る・受けるための基礎になる情報が入ってこない、という「障害の重さ・大変さ」を感じました。

Q 手話を始めてみて、自分にとって良かったと

思えること、何かありますか。

A 今まで、「ろう者」や「障害者」の方をみて、傍観者だったけど、最近は身近になった感じがうけてます。そして、自分でも何かをしたいという気持ちの広がりが出てきて、社会への関心も多く持つようになってきました。

Sさんは、第二期として開始した六三年度の講習会にも足を運んでくれている。

初級用手話テキストを用いて行なわれているが、そこにとどまらない。時には、ゲームをしたり手話の歌を唄ったり、教本通りに行かない良さがある。利用生に、自分の名前も思うに任せない人もいる中で、講師の方の努力で、「ろう者」と「健聴者」が円い席を囲んでいる。

「ろうの人」が日常使っている「ことば」を目のあたりにすることは、新鮮な感動として映った」という受講生、「編物が好きなので時間の空いた時、一緒にどうかなと思うんですが」と言ってくれている人。手話を上手に、早く、美しくからは、ほど遠いかも知れないけれど、こうした雰囲気の中で行なわれているのが、ここの講習会の特長と言えるかも知れない。

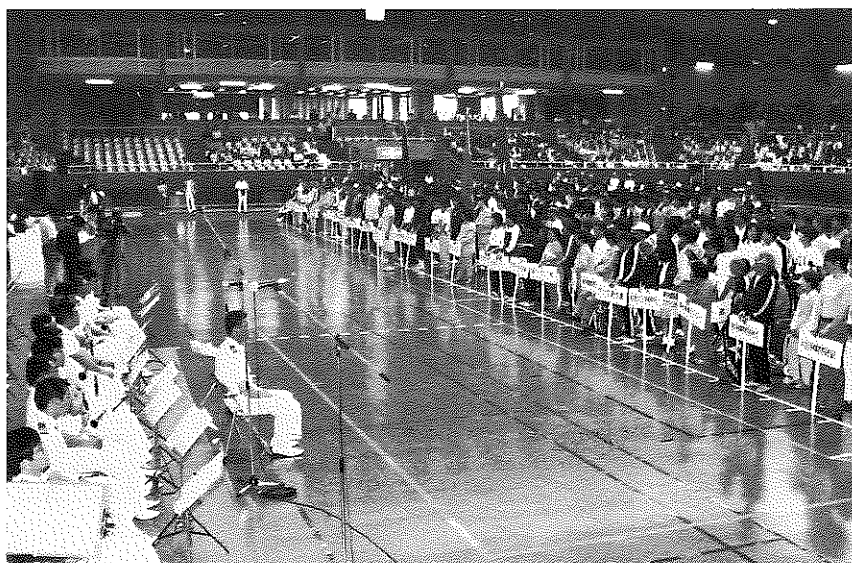
一つの表わし方をめぐって、ワイワイ・ガヤガヤ、人が人と向き合って話をするという、交流の原型がここにはある。こうした体験が少なかったであろう、「聴こえない人達」、なくしつつある「聴こえる人達」、この要素をなくすることなく大事に続けたい。この原型の中から、又別の世界が広がる気配さえある。その世界をどう開いていくかは、利用生自身や、私達一人一人の心と手にある。

その扉のノブに今、手がかけられている。

第38回東京都身体障害者

スポーツ大会

去る六月一日、東京都駒沢オリンピック公園総合運動場において開催され、世田谷更生館、友愛園、東京都ろうあ者更生寮の利用者全員が参加した。



▶ 車椅子競争

車椅子競争にがんばる友愛園利用者(右)

▲ 開会式



◀ 砲丸投
聴覚障害者部門の砲丸投で、好成績を挙げた東京都ろうあ者更生寮利用者

投稿

お年寄りとの出会い

友愛ホームボランティア講師

沼尻 智恵子

十年一昔と申しますが、月日のたつのは早いものでございます。私が友愛ホームのお年寄りとお知り合いになって、まもなく四十年近くになります。

私が十九才の時、結婚のため北朝鮮に渡りました。しかし、新婚生活を送る間もなく、戦況は日増しに我が国に不利となり、自分自身生きのびるのが精一パイでした。その様なときに「この子を頼みます」と一言云い残して亡くなった横山さん、みねさん、大谷正江、好江さんのことは、何時迄も忘れられない思い出です。

なんとしても預かった四人の子供達は日本に帰してあげたい、帰えそうと心に誓い一生懸命でした。しかし混乱の続く当時は正規の引揚げ手続きを待つて居ては何時になるか分からず一日も早く帰るには「やみ舟」を頼るしかありませんでした。だがやみ舟を頼むにはかなりの費用がかかり、その費用をつくるのに一年半、どうにか子供たちの分だけをつくり、四人の子供

達を舟に乗せたときは、これで亡くなった方たちのお約束を果たすことができた、ホッといたしました。無理がたたったのか身体をこわし、日赤病院に保護され手厚い看護を受け再び日本の地を踏むことができました。この時「報酬を望まない奉仕は大切」ということを学んだような気がいたします。

ちょうどその頃、今は亡き施設の小田島園長さんから、養老園（現友愛ホーム）にお年寄りが預けられており、部屋の間で淋しそうにしているが何とか、明るく楽しく暮らさせたい、あなたの特技を生かして面倒を見て欲しい。と言われいろいろ思案いたしました。が、私もお年寄りが大好きでしたので一度お目に掛かることにいたしました。

当時は現在の入口事務所のところがお年寄りの寝起きをするところでした。長い縁側があり、間仕切りは障子で木造の一角の日向に出て、空を眺めている方、薄暗い部屋の片隅でじっとしている方等々、何とも言えぬさびしさを感じて来るだけのことを感じたいとお伺いすることになりました。最初の頃は何をやるにしても道具等が無くお盆を持って花笠音頭を踊ったり、もっぱら身体を動かし、大きな声を出すことが健康に良いこと、指先から老化が始まることをお話することから始めました。一週間に一度の出会いでしたがお年寄りも一人増え、二人増え段々輪

も広がり、寮母さん、事務所の方々迄殆んど参加され施設の中も賑やかになってまいりました。

お茶の稽古を一度で良いからしてみたいと言われ、自分の着物をはぐしてふく紗をつくったり、なつめの代わりに空き缶を使い、茶勺はエンプिटという具合でした。今は無くなりましたが、門の右横に大きな用水があり、その上に丸太を置き板を並べて舞台を造り、紅白の幕を引き、花見のお弁当を頂いたのも楽しい思い出です。四十三年の朝日生命ホールで行われた第一回老人芸能大会に出た時に「奇麗な着物を着せて頂き、立派な舞台に出させて死に花を咲かせて下さるなんて、こんな嬉しいことはない冥途のみやげに致します……」と、この言葉、お気持ちを大切に思い出したのが「姥桜」です。

世の中が落ち着くに従い施設の中も明るくなつてまいりましたが、その蔭にはいろんな方のご苦労がありました。当時の寮母さんは洗濯一つするにしても大変なものでした。一日に何回もトライに水を張り固型石鹼で洗濯、そしてお年寄りの世話、手を引いてクラブ活動への参加等々、その心やさしさ、その献身振りがお年寄りを明るくしたものだと思えます。そして今もその精神が受け継がれ、守られていることに感激しております。

その後、ホームも新築され明るく奇麗な部屋になり、お年寄りの生活も変つてまいりました。

クラブ活動も盛んになり、私も週四科目の受持を通して、お年寄りのお付合も深まり益々張り切っている今日この頃です。何時迄も命のある限り、人とのつながりを大切に考えております。

母をホームに送って

友愛荘利用者家族

亀ノ内 博子

幼い頃から女手一つで育ててくれた気丈な母が、思うように歩けなくなり、それでも家の中で這って用事をしているうちはよかったが遂に床にいたままとなってしまった。それから数年間というもの……日々、介護戦争でした。

親娘二人だけの生活は、私がおつとめに出ている間は母一人だけ……。このため母は調子の悪い時でも自力で起き上ることも出来ない。留守の間何事もなければと後髪をひかれる思いで毎朝家をあとにし、帰って来てドアを開けるまでの不安な気持ち、何事もなかった時の安堵感ノその繰り返しでした。

悩んだ末ホーム（友愛荘）にお世話になる決心をし、入所後は職員の皆様が常に目を行き届かせて下さっているという安心感に変わりました。しかし社交性に乏しくマイペースの生活を送っ

てきた母が、果して八十半ばを過ぎて、はじめて経験する環境の変化に順応できるのか、入所時には相当の不安がありました。案じた通り、しばらくは情緒不安定となってしまった母の姿を見て、ホームへ送ったことがいけなかったのかと、安心感も束の間、自分が責められてなりませんでした。

早いものでもう入所後半年を迎えようとしております。ホームの皆さんの暖かい親身のお世話のお蔭で母もようやくホームに馴染むようになり、私の入所当時の自分の気持との葛藤も何時しかとけて参りました。今、母は一生懸命リハビリ訓練をしております。歩くことは不可能でも、車椅子に乗せて頂ければ自力で何んとか二・三メートルでも動かすことが出来る位に立直り、家にいた頃には考えられなかったことでも出来るようになり、皆様のご尽力に頭が下がっている思いがしています。最近では次第に元気になってゆく母を尋ねることが私の生活の歯車の一つに加わりましたものの、私が足繁く訪れることが果して母の今の生活にプラスになるのか悩むことがあります。しかし、第三者に当るお年寄りを暖かく献身的にお世話下さっているホームの職員の皆さんに接する度に、家族として現在出来ることは週に一二回程度せめて母へ顔を見せて、精神的に元気づけることではないかと……試行錯誤している心境であります。

また、今日一日が無事に終りベットに入る度に自分の事が思うように出来ない母が、皆さんにご迷惑をかけずに眠ってくれますようにとの思いが、頭の片隅をよぎってゆきます。

こんな今の自分は、未だに親離れ出来ずにいるのかと、自分自身に対し問わずにはいられない今日この頃です。

（入所する前から現在に至るまでの私の揺れ動く心境を、率直に拙ない文に記しました）

課外訓練旅行に参加して

友愛園利用者

坂口 歳男

今年の課外訓練旅行は、五月二十日どんよりと雲が低く今にも雨が降り出しそうないくらの天候でした。観光バスで砦を出た私達は、東名高速を目的地の愛知に向いました。西に向うに従って次第に雲も薄くなり車窓に富士山がその雄大で美しい姿を霞ませていました。やがて浜名湖を左に見て三ヶ日のインターで名物「うなぎ弁当」に舌鼓を打ち、蒲郡で高速を降りました。岡崎市には、松平、徳川家の菩提寺である太樹寺があります。ふと思いついたのは、「人の一生は重荷を負うて、遠き道を行くが如し。急ぐべからず。不自由を常と思えば不足なし、

心に望み起こらば、困窮したるときを思い出すべし。堪忍は無事長久の基。怒は敵と思え。勝つことばかり知りて負けることを知らざれば害その身に至る。己を責めて人を責むるな。及ばざるは過ぎたるに勝れり。」という一番好きな家康の遺訓です。

三河湾オレンジロードを通り、目的地「愛知太陽の家」に着きました。三河湾に面していて夏は涼しく冬は暖かいということでした。敷地面積三四〇〇坪、建物延二九〇〇坪ということ、身体障害者福祉工場に働く百人と、重度授産施設に働く五十人の比較的若い人達が、自動車用コンビネーションメーターの与えられた工程を、熱心に、黙々と組立てていました。入口にはタイムレコーダーがあり、仕事はベルトコンベヤーを利用しての絶え間のない流れ作業でした。「太陽の家」のモットーは、「世に心身障害者はあっても、仕事に障害はあり得ない。太陽の家に働く者は被護者ではなく労働者であり、後援者は投資者である」ということでした。身体的ハンデアイを科学で補い商業的立場での企業とのタイアップにより運営されているのと、ここで、確かに素晴らしいことだと思いました。食堂は天井が高く広く明るかったことも印象的です。隣接のコミュニケーションセンターには、金融機関や喫茶店もあり、体育館や劇場として地域の方にも開放しているそうです。塀やフェンス

は設けないで自由に誰もが出入りできる雰囲気大切にしていました。どれもが納得できることばかりでした。

ただ正直なところ、私はここで働きたいとは思いませんでした。近代的な設備と社会への積極的なアピールは必要でとても良いことだと思えます。年令のせいかわ、新鮮なモットーよりもやはり家康の戒めの方が私の性に合うような気がしました。その夜は三谷温泉につかりながらゆっくりそんなことを考えてみました。

友愛十字会主要行事

62・10・1～63・3・31

62・10・4	愛のステージ（更生館、友愛園）	63・1・13	新年祝賀の集い（友愛荘）
" 10・15～63・3・31	手話講習会、毎週木曜・二十三回（ろうあ更生寮）	2・3	豆まき（友愛ホーム）
62・10・18	ミカン狩（ろうあ更生寮）	" 22	ボウリング大会（ろうあ更生寮）
" 25	文化祭（世田谷三施設）	3・2	ひな祭り（友愛荘）
" 28	いも掘り（友愛荘）	" 3	ひなまつり（友愛ホーム）
11・1～5	文化祭（友愛荘）	" 5～6	耳の日記念行事（ろうあ更生寮）
" 2	開園記念式典（友愛荘）	" 8	大歌舞伎観劇会（友愛ホーム）
" 3	家族懇談会（友愛荘）	" 15～16	一泊旅行（友愛ホーム）
" 11	地域交流ゲートボール大会（友愛荘）	" 16	映画会（友愛荘）
" 18	映画会（友愛荘）	" 22	彼岸法要（友愛ホーム）
		" 31	彼岸法要（友愛荘）
			昭和六十二年第三回役員会

俳句

友愛ホーム俳句会より

講師 松本千鶴子 選

朝顔の蔓は隣りが好きとみゆ

琴女

朝顔の色とりどりの目覚めかな
しぐるるや箱の中より貼葉

いわの

朝顔の紺の大輪丹精す

弘児

通院のころなごます花芙蓉
春浅し友の便りのとだえけり

千代

晩年の何かせかるる秋の暮

壮之介

抱かれ児に手をふり別れ秋の暮

茂

春浅し雀のこえのはづみをり

多賀子

あれこれの病に堪えて浅き春

チヨ

桃の花机に挿して俳句会

秀三郎

善意のかずかず

昭和六十二年下半期中に、次の方々から善意の金品のご寄贈を頂き、また、入所者をご慰問下さいました。ここに心から御礼を申し上げます。

(寄付金) 62・10・1 63・3・31

敬称略 あいうえお順

○世田谷関係

阿部常左エ門 岩間正男 大蔵自動車商会 小野坂豆腐店 小川しづ 川上和子 川西英子 金子秀雄 関電工労働組合東京支部青年婦人部 関東ボウリング場協会 砧教会教会学校 砧商事 東京成城ライオンズクラブ会長木村通男 小杉千賀子 小松英夫 世田谷区身体障害者福祉協会会長斉藤清一郎 佐藤淑江 斉藤リツ ジャパンレデイスボウリングクラブ 昭和女子大学中高部生徒会 島田はな 淑徳短期大学 全国生活協同組合連合会 聖文堂 玉置千代 太丸屋衣料 竹園 千歳農協婦人部 世田谷区障害福祉課長津田郁

二良 一步の会手島よしの 東急弘潤会 中野政雄 内藤千紗子

南部自動車株式会社 沼尻善四郎

世田谷区肢体不自由者父母の会長 谷川七郎 藤蔭静照 本多シズエ

細谷まち子 本田設備 本多猪四郎 星野チヨ 松本千鶴子 丸山

工務店代表取締役丸山政輝 丸東松本博之 山田はる子 山本晴之

介 吉田やちよ リビングタカハシ 和田光

○東京都ろうあ者更生寮

岡貞明 埼玉県共同募金会行田市支会 鈴木助成事業団理事長鈴木元徳 竹川幸

○友愛荘

阿部正行 秋元志づ 伊東保義 池田イト 小峰服飾専門学校長小峰美加代 佐藤ゆき 菅野昭正

城南信用金庫原町支店長 せい

よし宮松 下小山田寿老会会長

図師老人クラブ寿会会長 玉川学

園長小原哲郎 東京関東ライオン

スクラブ会長高橋芳子 寺田忠平

徳山宮子 橋本キヨ 萩原貴美江

福音会(染谷、柚木) 町田市社会

福祉協議会長加藤忠男 吉川百貨

店社長吉川友子

(寄付物品)

○世田谷関係

阿部ツネ 石田潮四郎商店 カルピス食品工業 花王株式会社 岸田浩 キリンビール株式会社 シヤルレ 世田谷区防災対策課 津村順天堂静岡工場 東京都中華料理環境衛生同業組合世田谷・玉川・砧支部 東京丸の内ライオンズクラブ 東京善意銀行 東京都生命保険協会 東京穀物商品取引所取引員協会 名川精米店 日本タバコ産業株式会社 野川康昌 毎日新聞東京社会事業団 米屋本店 ○東京都ろうあ者更生寮 板橋区社会福祉協議会 花王株式会社 カルピス食品工業 共同石

油 全国金属労組青年婦人協議会
東京善意銀行 米屋本店

○友愛荘

石田潮四郎商店 (株)キリンビール
社長 本山英世 島田良男 (株)津村
順天堂静岡工場長 岸本慶一 東京
紀尾井町ライオンズクラブ会長 長渡
部榮一 東京善意銀行 東京麵類
協同組合理事長 野川康昌 町田市
鮮魚商組合長 黒木亨 松屋商店

(慰問)

○友愛ホーム

東京都中華料理環境衛生同業組合
世田谷 玉川 砧支部 平岡会

○友愛荘

浅香光代 飯田豊治 大塚千代美
桜美林幼稚園 小山田桜台保育園
旭寿会 コール忠生 坂井シヅ
桜井幸江 総合みのり会 多々良
武雄 鶴川高等学校 天理教日東
紀分教会北多摩支部婦人会
ときわ保育園 東京紀尾井町ライ
オンズクラブ 東京関東ライオネ
スクラブ ふるさと渋谷少年社会
参加推進委員会 弥生会

職員異動

62・10・1 - 63・3・31

友愛園

退職 調理員 石川千恵子 63・1・31
指導員 松島信雄 63・2・29

友愛ホーム

採用 寮父 後藤晃一 63・3・1
退職 寮母 鶴巻信子 62・10・19

友愛荘

採用 指導員 宮田義典 63・3・1
退職 寮母 在間光江 62・12・31
看護婦 山田知子 63・3・31
川口順子 63・3・31



編集後記

●前六号から四頁増して投稿欄を
拡げますと、予告いたしました
が、今号は原稿の関係から以前の
形で発行することになりました。
予告どおりに編集したので、
関係者の皆さんの投稿をお願いし
ます。

●施設利用者の居室は、ベッド式
の洋間がいいか、畳の和室の方が
いいか、新設、増改築するときに
必ず検討されることの一つです。

そこで今回は日本文化のシンボ
ルともいえる「畳」について

●古い文献によると昔の畳は、今
の薄縁のようなもので、使わない
時はたたんでしまっておくもの
ようでした。

平安時代の貴族社会では、置き畳
といつて板敷の部屋の一部に置き
てそこに座る習慣があり、身分に
よって大きな畳に座り、また縁の
部分の色もその人の位階によって
区別されていたようです。今でい

えば、地位によって座るイスが違つ
たりする会社などと同じです。

●その後、室町時代になると、書
院造りの建物とともに畳が部屋いっ
ぱいに敷き詰められるようにな
り、江戸時代に入つて一般町民の
間にも畳の生活が始まりました。

●畳には断熱、保温、吸湿、放湿
などの機能があり、和室に入ると
なんとなく落ち着いた気分にもな
るものですが、単に雰囲気だけで
そうなるだけではなくて、畳に吸
音性がある、室内の音が吸収さ
れて静かになるからといわれます。

●最近、ダニの棲息が話題になつ
ています。まめに掃除し清潔にす
ることが大切です。(山崎輝久記)

ゆうあい

七号

昭和六十三年九月一日 発行

発行 社会福祉法人友愛十字会
発行人 草原国司

〒157 東京都世田谷区砧

三丁目九番十一号
電話 (〇三) 四一六・三二六